

(1)学校教育目標	<p>知・徳・体・情操を育み、調和のとれた人間の育成          1 正しい判断のもとに主体的に行動する          4 健康で安全な生活を送る態度を身に付ける</p> <p>2 利己心を抑制し、他人の立場を考えて行動する          5 感謝する心、美しさを感ずる心を培う</p> <p>3 調和のとれた人格の形成と豊かな教養を身に付ける</p>
-----------	---

学校整理番号	28
学校名	青森県立三戸高等学校
全日制の課程	校舎

(2)現状と課題	本校の多くの生徒は純朴で素直である。しかし、学力的には多様な生徒が入学しており、様々な支援を必要とする生徒も増加傾向にあることから、生徒に自己肯定感や自己有用感を持たせるような指導が必要である。
----------	---

自己評価実施日	令和8年1月28日(水)
学校関係者評価実施日	令和8年2月13日(金)

(3)重点目標	<p>1 授業の充実(確かな学力)</p> <p>2 生徒指導の充実(豊かな心)</p> <p>3 進路指導の充実(生徒の夢実現)</p> <p>4 開かれた学校づくり(チーム三高)</p>
---------	---

(9)-イ 学校関係者評価委員会の構成	学校運営協議会 委員8名
---------------------	--------------

(4)結果の公表	学校ホームページで結果を公開している。保護者にはアンケート集計結果と記述欄の回答を文書で配布している。
----------	---

番号	(5)評価項目	自己評価			学校関係者評価		(10)次年度への課題と改善策
		(6)具体的方策	(7)具体的方策による目標の達成状況	(8)目標の達成度	(9)-ア 学校関係者からの意見・要望・評価等		
1	授業の充実(確かな学力)	<p>(1)選択科目やコース制での授業を最大限に活用し、学習意欲を高めることで学習習慣の確立に努め、一人一人の学習成果(基礎学力の定着・志望に応じた学び)に繋げる。</p> <p>(2)ICTの活用やALT等、学習スタイルに変化をもたせ、個別最適な学びの実現を目指す。</p> <p>(3)学校設定教科「みらい探究」では、すべての教科のクロスカリキュラムによる教科横断的なプロジェクト型学習を通じて、社会に通用する力を身につけさせる。</p> <p>(4)総合的な探究の時間において、SDGsと持続可能なまちづくりをテーマに教科での学び等を生かし、地域人材を活用し、学年の枠を超えた協働や体験を豊富に取り入れた探究活動を展開する。(キャリア教育との関連)</p>	<p>(1)コース別、選択科目別、個別指導等により基礎学力の定着や志望進路実現に向けた学習成果を目指した。しかし、授業確保・学習習慣の確立・学習意欲を高めるための授業の工夫において改善が望まれる。</p> <p>(2)ICT活用推進リーダーを軸として、様々な学習の選択や校務削減を可能にする生成AIなどの活用につなげるために情報共有を図った。</p> <p>(3)教科横断的なプロジェクト型学習を行い、生徒の特性や実態に合わせた学習指導が行われ、全学年で現行の学習指導要領に沿った観点別評価を行った。</p> <p>(4)総合的な探究の時間や「みらい探究」などを通じて、課題に基づく、学年の枠を超えた協働と地域人材の活用により、主体的に問題を解決する力や協働する力を高めることができた。</p>	A	<p>探究をはじめとして、様々なところでメディアに取り上げられている。いろんな体験の中で生きる力をつけていると感じているが、一方で最低限の学力をつけることが課題だと感じている。家庭の協力を得ながら、学力の確保をしっかりと進めて欲しい。</p>	<p>(1)来年度は1単位減での教育課程実施となるが、授業以外の時間も有効に活用し生徒の学習成果を図るための方策を考える。</p> <p>(2)様々な学習支援ツールを活用した授業を相互に参観することで授業改善につなげる。</p> <p>(3)生徒の特性や実態に合わせた学習指導や現行の学習指導要領に沿った観点別評価を行ったが、次期学習指導要領への移行を踏まえ教育課程委員会などで検討する。</p> <p>(4)総合的な探究の時間における予算は今年も課題となる。計画が遂行されるように実績を積み上げ、引き続き持続可能なまちづくりをテーマに地域社会の人財を活用し、生徒の成長につなげる。</p>	
2	生徒指導の充実(豊かな心)	<p>(1)服装や挨拶など、基本的な習慣について普段の生活から気を付けさせる。</p> <p>(2)心身の不調や学校生活への不安を抱える生徒に対して組織的に対処し、状況の改善を支援する。</p> <p>(3)携帯電話やSNSによるトラブルに遭わないよう、メディアリテラシーや情報モラル等についての意識を高める。</p>	<p>(1)服装や挨拶など、基本的な習慣について、ほとんどの生徒がしっかりとしていた。</p> <p>(2)心身の不調・不安等について、担任、養護教諭が相談に乗り、分掌・学年内で情報を共有し、状況の改善を粘り強く支援した。</p> <p>(3)携帯電話やSNSによるトラブルについて、学年から報告・相談があった際、関わっている生徒やその内容などについて把握し、注意するなどの対処をした。</p>	B	<p>ひと昔前では、ゲームとかスマホがない時代であった。やり方、使い方によっては非常に危険なものであるが、大変便利なツールである。今後、スマホなどの使い方について、SNSなどの上手い付き合い方の指導をお願いしたい。</p>	<p>(1)普段の生活を通じて、挨拶を励行する。また、他者との距離感や接し方などについて適切であったかどうか振り返り記録して改善につなげる。</p> <p>(2)ホームルーム等で自分の不安や悩みについて見つめる時間を作り、どのように対処しているかを分析して、自己の心の安定を図らせる。</p> <p>(3)情報モラル教室や動画教材等を用いて、スマートフォンやSNS等の使い方について考えさせ、情報モラルやメディアリテラシーについての意識を高めさせる。</p>	
3	進路指導の充実(生徒の夢実現)	<p>(1)進路志望の早期確定のため、個人面談を実施し、進路情報を提供するなど、生徒の進路決定を早期にサポートする。進路指導部主任が3学年生徒と年度当初に、2学年生徒と修学旅行後にそれぞれ個人面接を行う。</p> <p>(2)大学・短大進学率向上に向け、進学に関する情報共有を密にし、適切な進路選択ができるよう支援するなど、生徒の学習意欲を高める環境を整える。</p> <p>(3)就職希望者に対しては、外部講師を活用してガイダンスを実施し、社会に出る意識を高めるなど職業観を醸成する機会を提供する。</p> <p>(4)3学年生徒への就職・進学試験対策として、全職員で協力しながら面接指導や小論文添削を実施するなど実践的な対策を行う。</p>	<p>(1)進路指導部主任が、年度当初に3学年生徒(みらい探究コース)との個人面談を実施し、就職希望者の希望職種や希望勤務地を把握することができた。これにより、生徒の進路希望に即した情報提供につなげることができた。なお、2学年生徒については、三者面談実施後に個人面談を行う予定である。</p> <p>(2)生徒一人一人の進路希望に応じて、進路情報を個別に提供し、適切な進路選択に向けた支援を行った。</p> <p>(3)2・3学年の就職希望者を対象に外部講師による就職ガイダンスを実施した。また、就職希望者が求人票を随時閲覧・検索できるようにHandy進路指導室を導入した。3学年生徒には求人でも来校した企業担当者から直接話を聞く機会を設け、職業理解を深める取組を行った。</p> <p>(4)就職・進学試験に向けた指導については全教員の協力を得て面接指導や小論文指導等を実施し、実践的な対策を行うことができた。</p>	B	<p>就職の面では、求人票をタブレットで見ることができたこと、すい感を感じた。子どもと相談しながら、興味ある求人を見ながらすんなり就職先を決めることができた。進学する生徒はそれらに合った進路を達成してくらたと思っている。</p>	<p>(1)就職希望者との個人面談を通じて希望職種等を早期に把握し、適切な情報提供を行うことができたことから、次年度以降も計画的に面談を実施し、継続的な支援を行ってきたい。</p> <p>(2)進学希望者の増加により進学率は向上し、総合型選抜等を活用して進学先を決定する生徒が多く見られた。一方で、一般選抜を想定した場合に必要な基礎学力や学習の持続力については課題が残る。今後は学力を身につけさせるための指導の工夫が必要である。</p> <p>(3)外部講師によるガイダンスやHandy進路指導室は、今後も活用していきたい。</p> <p>(4)面接・小論文指導に関する研修や情報共有を通して指導の視点や方法の共通理解を図り、校内全体で安定した指導が行える体勢の充実に取り組みが必要である。</p>	
4	開かれた学校づくり(チーム三高)	<p>(1)SDGsの1つである持続可能なまちづくりを目指し、課題を通して社会の形成に主体的に参画しようとする意欲や態度を育む。(地域との連携)</p> <p>(2)中学生体験入学等を実施し、各中学校への説明会にも積極的に参加するなど、本校の情報を発信する。</p> <p>(3)地域との連携による地域理解と学校魅力化の推進</p>	<p>(1)町役場等、関係機関と連携しながら、地域の課題に目を向けさせ、地域理解を深めさせる探究活動を取り入れた。</p> <p>(2)中学生体験入学の実施や中学校での学校説明会に出向くだけでなく、個別の学校説明会(オープンスクール)も積極的に受け入れ、丁寧かつ誠実に中学生や保護者に説明することで、学校理解を促し、三戸高校を進路選択につなげてもらえるよう行った。</p> <p>(3)三戸川まったりや田子町にんべこまつりなどの町内外のボランティアに参加させ地域理解と交流を図ることができた。また、三戸高校魅力化コーディネーターとともに全国募集を行い、学校説明会などを実施し学校魅力化の推進を行った。</p>	A	<p>町の行事などにボランティアとして生徒が参加していただいている。また、全町放送では「三戸高校の〇〇です」と言いながら夏休み、冬休みで夕方の放送がかかる。この活動が町民に溶け込んでいるし、三戸高校の存在感が増していると感じている。</p>	<p>(1)総合的な探究の時間における活動は広範囲かつ発展しており、さらなる地域理解にも繋がる。生徒が課題解決力や身に付け、地域に必要な人財育成のために次年度以降も継続したい。</p> <p>(2)体験入学では、本校生徒が主体となった運営が好評であった。中学校訪問などを行うとともに、体験入学など様々な機会をととして、本校のPRに取り組み。</p> <p>(3)地域活動やボランティア活動などの体験活動を通し、生徒が自発的・主体的に参加ができるよう促していく。また、三戸高校魅力化コーディネーターとともに全国募集を行い三戸町役場と連携をしていく。</p>	

(11)総括	<p>少人数指導の利点を生かし、生徒一人ひとりにきめ細やかな教育が実践できている。また、地元三戸町・田子町・南部町を中心として、地域との連携を大切にし、地域の要望に応え、地域のボランティア活動をはじめ生徒に各種活動を体験させることができた。「総合的な探究の時間」では、SDGsをテーマとした探究活動を通して地域理解にも繋げ、地域に必要な人財育成を行っている。教育目標である「知・徳・体・情操を育み、調和のとれた人間の育成」は概ね達成できた。来年度も小規模校の利点を生かしつつ、生徒一人ひとりの希望や能力、適性をしっかりと見極めながら生徒全員の力を養う教育活動を展開し、地域の学校として期待に応えていく。</p>
--------	---